感　想

中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集いに参加して

広村 暁

１０月１８日、広島県安芸太田町坪野で行われた「第１９回中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集い」に初めて参列させていただきました。

富山から広島へ、行かなければというその思いは約１年前ほどからでした。富山県に移り住んで初めて長野県の「松代大本営地下壕」を見学したことが契機となり、幾つかの場へ見学そして追悼式などに参列してきました。その思いは、知らずにいた事実を少しでも知ること、追悼することでした。

昨年、池田香代子さんの『花岡の心を受け継ぐ』という本を読んで花岡事件を知り、６月の追悼式に何とか参列しました。朝鮮人強制連行と共に中国人強制連行も非常に重い問題であることを知りました。いろいろと読む中で広島・安野発電所工事への強制連行について知ることとなり、資料などをお願いしました。それらを学ばせていただきながら、一度は現地に行かなければという思いを抱いて来ました。

前日の、ご遺族を迎えての映像・証言そして講演の会は、大切な時と思いましたが、時間的に難しく１８日の集いのみの参加となりました。

市内からマイクロバスで深い山間部へ１時間ほど、途中長い長いトンネルを過ぎてやっと坪野へ。突然、拉致されて着の身着のままで、遥かに遠い全く知らない山奥に連れて来られた人たちの思いを想像しました。以前読んだ本に「我々は自然の美しさに心を奪われてしまうが、人間の働きかけや、そこにおける成果や犠牲について無関心であってはならない」とあったことを思い出しました。

集い前の坪野フィールドワークでは、安野発電所を見上げながら経過・労働の様子などのお話のあと立坑の工事が行われた貯水槽へ。５０ｍほどの急な上がり坂で息が切れそうでした。中国人労働者たちは長時間労働、粗食、着の身着のまま、靴も無いような状態でこの坂を上り下りしたのだろうか。立坑の上で、川原さんの発電所周辺の解説と中電の方の説明もあり、一層知ることができました。

午後に、「安野中国人受難之碑」前で「集い」が行なわれました。その受難之碑には中国人被害者と加害者である西松建設の連名で碑文が刻まれており、その両側の２つの石には死亡した２９人だけでなく連行された被害者３６０人全員の名前が刻まれていました。単なる慰霊碑ではなく和解の象徴としての祈念がこめられているとのこと。遺族そして来賓の挨拶のあと、二胡演奏の中で参列者の献花が行われました。小雨模様でしたが、終了の近く冷たい雨がやや強くなり、このような雨中での強制労働の姿が想い浮かびました。

終了後善福寺での追悼法要に参列しました。この問題に永く関わって来られた藤井住職のお話、お経を聞き、追悼の思いを抱きつつ帰途へ。このような機会を与えられ、参加させていただきましたことは本当に感謝でした。歴史の事実を知ること、そして省み伝えて行くこと、それを確認しました。